二〇一八年度　大阪府公立高校入試問題（B問題）

五〇分
九〇点

一

（注）答えの字数が指定されている問題は、句読点や「　」などの符号も一字に数えなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

例年、文芸コンクールの際、創作・随筆の応募原稿を見て第一に気になることは、段落に気を配った文章の少ないことです。

文章における段落の役目は、たとえば家屋の構造を例にとりますと、家屋には、普通、玄関があり㋐居間があり台所があり、そして風呂（ふろ）場があって便所があります。家屋全体を一つの文章とすると、この玄関、居間、台所、風呂場、便所が段落なのです。その広さ、用途はそれぞれちがいます。文章における段落も、ひとつひとつの段落ごとに、意味も状況も思想もちがいます。しかし、その渾然（こんぜん）とした段落があってこそ、はじめて文章としての形態をとるのです。

したがって、段落のない文章は、家屋でいうと、玄関のみの家、居間だけの家ということになります。それでは家屋としてのかたちをなしません。

①一編の文章は、いくつかの文から成り立っていることを、しっかりと認識しておく必要があります。文は、あるまとまった意味をあらわします。文を構成するのは、文節です。

「私は　窓を　あけて　晴れた　空を　見上げた」と区切ったのが文節で、「私は窓をあけて晴れた空を見上げた」というのが文です。文はマルで区切ることのできる言葉のひとまとまりで、文章は、このような文がいくつかあって、ひとつのまとまりのある内容を表現した言葉の集合体ということになります。

では、具体的に、段落はどのようにつけるべきか、改行のコツといったものは何か、といった問題が生じます。

段落、つまり改行は、多ければ多いほど読みいいのだろうから、マルのところがきたら次は改行する、というのでは、改行だらけ、段落だらけの文章になって、しまりのない表現になってしまいます。

さきほどあげた文章の例でいきましょう。

「私は窓をあけて晴れた空を見上げた。空には、雲ひとつなかった。②ふと目を転じると、遠くから黒く光るものが近づいてくる。よく見ると、飛行機だった。」

といった文章ですと、「ふと目を転じると……」で改行します。

要するに、ある状況なり意味が次の状況なり意味へと移るとき、改行が必要になってくるのです。段落をつけなければならない文章表現上の㋑暗黙のルールとでもいえばいいでしょうか。

短い文章の場合、この改行の効果はとくに大事です。読後、作品から全体の密度が濃いか薄いかを受けとめるのも、段落をいかに考えているかによる、といってもいいでしょう。

フランスの作家マルセル・プルーストは、段落の少ない、息の長い文体で有名です。プルーストにはプルーストなりの段落に対する考えがあるところから、息の長い文体となっているのですが、一般的には、適当な段落は、文章表現上、欠かせない約束事なのです。いろんな作家、エッセイスト、評論家などの作品を㋒丹念に読んでみることによって、段落のコツを会得(えとく)することができます。

文章を書き慣れない人は、最初のうちは少々多すぎるくらいの段落をつけてみることです。まったく段落のない文章よりも、目立つくらい多い段落の方が、やがては、効果を盛り上げる段落のコツを自然とのみこむことができるものです。

文章全体の骨組みをがっちりしたものにするためにも、改行の効果、段落ごとの文としての意思表示をはっきり打ち出すようにしたいものです。段落のいい加減な文章は、まず第一に、他人に読んでもらうことができません。

いまこの文章の初めの方の段落について振り返ってみますと、最初の段落は、段落の少ない文章の多いことについてふれています。第二の段落は、［③］。第三は、段落のない文章が家屋としてのかたちをなさないことについて説明し、第四は、文と文節についての段落です。

それぞれに、段落ごとの意味があります。状況があります。意思表示があります。段落には段落のちいさな主張のあることに気をつけましょう。

（西岡光秋「ちょっと気のきいた文章の書き方」より）

1　本文中の次の漢字の読み方を書きなさい。

㋐ 居間

㋑ 暗黙

㋒ 丹念

2　①一編の文章は、いくつかの文から成り立っているとあるが、本文中で筆者は、文章を構成する「文」とはどのようなものであると述べているか。その内容についてまとめた次の文の［　］に入る内容を、本文中のことばを使って**四十五字程度**で書きなさい。

文とは、［　］ものである。

3　②ふと目を転じると、遠くから黒く光るものが近づいてくる。の一文を文節に区切ったとき、初めから数えて**六番目**になる**一文節**を抜き出しなさい。

4　次のうち、本文中の ③ に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　家屋を例にとり、文章における段落のつなぎ方を述べています
イ　家屋を例にとり、段落に分ける方法の難しさを述べています
ウ　文章における段落を、家屋を例にとって述べています
エ　段落に分ける方法を、家屋を例にとって述べています

ア　イ　ウ　エ

5　文章における改行の効果について、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。 a 、 b に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、それぞれ本文中から抜き出しなさい。ただし、 a は**二十一字**、 b は**十七字**で抜き出し、それぞれ**初めの五字**を書きなさい。

a ときに段落をつけることで、 b にすることができる。

a □□□□□
b □□□□□

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この場面までのあらすじ

> 筆者たちは江戸に行く道中、ある商人に「川舟に乗って行けば三日で江戸に着く。歩いて行くことはない。私はすでに荷物を舟にのせた。あなたたちも同じ舟に乗りなさい。」と強引に誘われ、その夜のうちに同じ舟に乗った。

ひと日あまりくだりて、関宿とやらんに着く。かくて雨の降り出でたるに、舟は川の岸によせて、四日ばかりはあるべし。

我が道のつれ（連れ人）は、こころはやきものなりければ、うちはら立ちて、「歩より行きたらん、①きのふぞ江戸に入るべし。商人にぞ深く②たばかられたり。あな遅の舟の足や」と云ふに、商人打ち笑ひて、「此れほど花ぐもりのけしき続きて、あまりに蛙の鳴きたれば雨こそふれ。おのおのの道のかたき（道中の妨げをしたのは）は、ただ［　③　］にこそあめれ（あるようだ）」とてかまはず。かくするほどに、西の風吹き出でて雲は東に流れ、虹の、こころよく彩りたれば、手手に舟の苫押し上げつつ、「あすははやく江戸には着く也。おのおのも蛙と中なをりしたまへや」とて、かの高荷の上に莚敷きわたして打ち見る。

（注）関宿＝現在の千葉県野田市の一部にあたる地域。水運上の要地として栄えた。
花ぐもり＝桜の花が咲く時期の曇った天気のこと。
苫＝植物で編んだ、小屋や舟を覆って雨露をしのぐのに用いるもの。
莚＝ワラなどで編んだ敷物の総称。

1　①きのふを現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

2　②たばかられたりとあるが、次のうち、このことばの本文中での意味として最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　遠慮された　イ　説得された　ウ　相談された　エ　だまされた

ア　イ　ウ　エ

3　次のうち、本文中の ③ に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　江戸　イ　商人　ウ　川舟　エ　雨蛙

ア　イ　ウ　エ

4　次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　川舟に乗った筆者たちは、四日ほどたっても江戸に到着しなかったが、強引に誘った商人は、気にもとめない様子であった。
イ　筆者の連れ人は腹を立てて、「舟が遅いので、江戸まで歩いて行きましょう。」と言って、歩いて行ってしまった。
ウ　商人は後ろめたい気持ちがあり、筆者たちに対して「曇りの日が続きましたね。」と言いながら苦笑いを浮かべていた。
エ　商人は気をつかう様子で、「明日の早くには江戸に着く。」と言って、自分の失敗をごまかすために虹を見るふりをした。

ア　イ　ウ　エ

三

次の(1)～(4)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、楷書で、大きくていねいに書くこと。

(1) 破竹のイキオいで連勝する。

(2) 両者が闘志をモやす。

(3) 昼夜のカンダンの差が激しい。

(4) コショウした機械を直す。

(1) □い　(2) □やす　(3) □□　(4) □□

四

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

Aかつて写真は、時間の流れをせき止め、凍らせ、瞬間を切り取る魔法のような一撃であった。さらにその決定的瞬間を待ち、「世界」の事態の一瞬を切り取ることは、「私」の世界への決定的な関与をも意味していることは間違いない。

多少でも写真を自ら本格的に撮影した者ならだれでもわかることであるが、写真は対象を写しているように思えて、実は、撮影者がそこには写り込んでいる。感動しながら撮ったのか、飽き飽きしながら撮ったのか、その対象の撮影者はどのような感情を抱いていたのか、Bそんなことが不思議なほどわかってしまうのである。ブレッソンも『決定的瞬間』で次のように言っていた。

Ⅰ

> 「自分自身」を発見することは、我々を形づくると共に我々が影響を与える「外部の世界」の発見と同時に起こるのだと思われる。そして、バランスはふたつの世界で打ち立てられなければならない。ひとつは我々の心の内部の世界、もうひとつは我々の外側に広がる世界である。その絶えまない①相互的なプロセスの結果として、ふたつの世界はひとつの世界を形成する。我々が伝達すべきなのは、Cまさにこの世界なのである。

つまり決定的瞬間といっても、それがなにか、外部の事態として客観的に存在している瞬間であるよりは、写真家それぞれの「私」と「世界」とが共鳴する瞬間であり、決定的瞬間は写真家の「私」抜きには考えることのできないものでもある。

もちろん、たしかに撮影者がある瞬間を決定的なものと「直観」し、なんらかの情感とともにシャッターを切った写真も、結果としては、②動画映像からのちに静止画を抜き出してきたものと同じに見えてしまうかもしれない。しかし、決定的瞬間を見定め、シャッターを切るという行為のうちには、「時間という流れ」と「瞬間」との間の弁証法的対立をみてとることができる。私なりに表現すれば、人間が有限的な時間性のうちに内在しながら、まさにそこから超越しようとする意志こそが「決定的瞬間」なのであり、実に、この行為こそ、写真を写真たらしめてきたものなのである。

コンピュータのうちに蓄えられる動画映像では、あらゆる時間の断片が、いわば等質で蓄えられるために、逆に決定的瞬間は消滅して

しまう。すべての瞬間はその前後との退屈な連続性のうちに没してしまうからである。

21世紀において、D ひたすら自己展開していくデジタルテクノロジーは、写真を動画映像の単なる一断片として、あるいは、動きのない静止画としてとらえつつ、写真からその独自の存在意義を剝奪（はくだつ）する形で進行していくことだろう。しかし、動画映像の一部分としての静止画と、これだ、という直観や感動や高まりとともに切られた決定的瞬間との差は、やはり、結果においても違う、と写真ロマンチストとしての私は主張しておきたい。行為としての写真こそ、写真の本質である、というのが私の写真に対する結論である。

（黒崎政男「哲学者クロサキの写真論」より）

20

（注）　ブレッソン＝フランスの写真家。
弁証法＝対立と矛盾を通じて、より高い段階の認識（総合）に至る哲学的方法。

1　本文中のA～Dの――をつけた語のうち、一つだけ他と品詞の異なるものがある。その記号を○で囲みなさい。

A　B　C　D

2　①相互的の対義語を、次から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　相対的　イ　一方的　ウ　系統的　エ　主体的

ア　イ　ウ　エ

3　次のうち、本文中のⅠで示した箇所の、本文中での役割として最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　筆者の主張を支える文章を示し、筆者が述べている内容の妥当性を補強している。
イ　筆者の主張によく似た一般論を示し、それ以外の意見がないことを表している。
ウ　筆者の主張を補足する文章を示し、直前で述べられている意見に反論している。
エ　筆者の主張を評価している文章を示し、筆者の主張の説得力を高めている。

ア　イ　ウ　エ

4　②動画映像とあるが、本文中で筆者は、「動画映像」では決定的瞬間がなくなってしまうのはなぜだと述べているか。その内容についてまとめた次の文の［　］に入る内容を、本文中のことばを使って**三十五字程度**で書きなさい。

動画映像においては、等質で蓄えられた［　］から。

5　写真の本質について、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。［a］、［b］に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、それぞれ本文中から抜き出しなさい。ただし、［a］は**六字**、［b］は**十六字**で抜き出すこと。

写真家おのおのの内部と外部の世界とが［a］が決定的瞬間であり、その瞬間を見定め、［b］と一緒にシャッターを切るという行為こそ、写真の本質である。

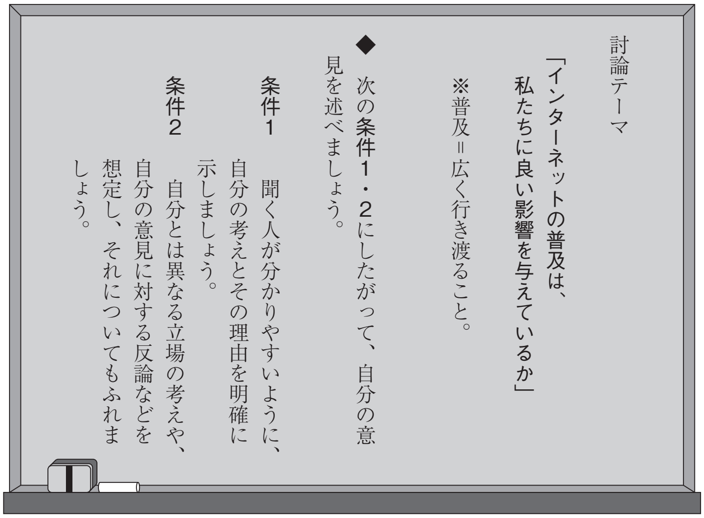
a

b

五

あなたは授業で、「インターネットの普及は、私たちに良い影響を与えているか」というテーマで討論をすることになりました。次は、先生から出された、討論をする際の【指示の内容】です。あなたなら、どのような意見を述べますか。あなたの意見をあとの原稿用紙に**二百六十字以内**で書きなさい。ただし、【指示の内容】に書かれている条件1・2にしたがって、文章を書くこと。

【指示の内容】



・原稿用紙の正しい使い方にしたがって書くこと。
・題名や氏名は書かないで、本文から書き始めること。

260
200
100

〈Note〉

二〇一八年度

大阪府公立高校入試問題（B問題）

一

解答

1、㋐いま　㋑あんもく　㋒たんねん　2、マルで区切ることのできる言葉のひとまとまりであり、文節で構成され、あるまとまった意味をあらわす（47字）（同意可）　3、光る　4、ウ　5、a、ある状況な　b、文章全体の

解説

2、「文は…あらわします」「文を構成するのは、文節です」「文は…言葉のひとまとまり」という説明をまとめる。

3、文節は、文を発音や意味のうえで不自然にならないように、できるだけ小さく区切ったときのまとまりである。「ふと／目を／転じると、／遠くから／黒く／光る／ものが／近づいて／くる。」と分けられる。

4、「文章における段落の役目」について、「家屋の構造」を例にとって説明している。「家屋全体」が「一つの文章」であり、「玄関…便所」が「段落」であるとして、「段落」の特徴を示している。

5、a、「私は窓をあけて…見上げた」という例文に文章を続けて、「改行が必要になってくる」という場合を示している。b、「改行の効果はとくに大事です」「適当な段落は…欠かせない約束事なのです」というように改行、段落が重要であることを述べたあとで、「…ためにも」という形で、改行の目的、効果をまとめていることに着目する。

二

解答

1、きのう　2、エ　3、エ　4、ア

解説

1、語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」にする。

2、商人から「川舟に乗って行けば三日で江戸に着く」と言われたのに、雨天で「四日」も舟が進めないことから、「道のつれ」が腹

を立てていることをおさえる。

3、「あまりに蛙の鳴きたれば雨こそふれ」という商人の言葉に着目する。雨を降らせて「道のかたき」をしたのは「蛙」だと言っている。

4、舟を出せないまま「四日ばかり」が過ぎ、いら立った「道のつれ」は、舟で行くことを勧めた商人に「あな遅の舟の足や」と不満を言うが、商人は「打ち笑ひて」という様子で相手にせず、「おのおの道のかたきは…こそあめれ」と冗談を言っている。

口語訳

一日ほど川を下って、関宿とかいう所に着く。さて雨が降り出して、舟は川岸に寄せられ、四日ほどがたったのであろう。私の連れ人は、気が短い者であったので、いらいらとして、「徒歩で行っていたら、昨日には江戸に入っていただろう。商人めにすっかりだまされた。ああ何と舟の遅いことか」と言うと、商人は笑って、「これほど花ぐもりの状況が続いて、あまりに蛙が鳴いていたので雨が降ったのでしょう。あなた方の道中の妨げをしたのは、ひとえに雨蛙であるようだ」と言って相手にしない。そうしているうちに、西風が吹き出して雲が東に流れ、虹が、気持ちよく空を彩ったので、めいめいが舟に被せていた苫を押し上げていると、「明日早くに江戸に着くでしょう。あなた方も蛙と仲直りしてくださいよ」と商人は言って、高く積まれた荷物の上に筵を敷き広げて私たちを見る。

三

解答

(1) 勢(い)　(2) 燃(やす)　(3) 寒暖　(4) 故障

四

解答

1、B　2、イ　3、ア　4、あらゆる時間の断片が、その前後との退屈な連続性のうちに没してしまう（33字）（同意可）

5、a、共鳴する瞬間　b、これだ、という直観や感動や高まり

五

解説

1、活用のない自立語で、体言を修飾する連体詞。他は、活用のない自立語で、用言を修飾する副詞。

3、写真の「決定的瞬間」に「対象」だけでなく「撮影者」も写り込んでいるという筆者の考えを述べたあとで、「決定的瞬間」についての「ブレッソン」の文章を引用している。「ブレッソンも」の「も」に着目して考える。

4、「決定的瞬間を見定め、シャッターを切る」という写真と対比させて、「コンピュータのうちに蓄えられる動画映像」について、「あらゆる時間の断片が…ために、逆に決定的瞬間は消滅してしまう」とし、その理由を「すべての瞬間は…没してしまうからである」と述べている。

5、a、ブレッソンの考える「我々の心の内部の世界」と「我々の外側に広がる世界」という「ふたつの世界」を取りあげたあとで、「決定的瞬間」について、「写真家それぞれの…瞬間であり」と説明している。b、動画映像との「差」を述べた文章で、「決定的瞬間」に「シャッターを切る」という行為に伴うものについて、「…とともに切られた決定的瞬間」と述べていることに着目する。

解答

(例)

インターネットの普及は、私たちに良くない影響を与えていると思う。多くの情報を容易に得られることで私たちは満足してしまい、人間が持つべき「知恵」を獲得する努力を怠るようになるからだ。

情報収集できれば知識も得られるのだから何の問題もないと考える人もいるだろう。しかし、「知恵」というものは「知識」とは違い、試行錯誤を繰り返すことや物事を深く考えることによって身につくものである。情報を手軽に断片的に得ているだけでは、「知識」は増えても「知恵」は得られないということを自覚しなくてはならない。(253字)